



ふらり らいふらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 186

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦中から戦後にかけて、食堂での食事に「外食券」を使っていたそうだが、
どのようなものか。

答) 全資料の**ことば**から検索してみます。

全資料 → **ことば** → **外食券** ⇒ 28件該当

<外食券制度について>

『史料週報 第32巻』(317/Sh89/32 閉架書庫)

『食糧管理史 5 [1]』(611/Sh96/5-1 閉架書庫)

<外食券食堂について>

『たべもの世相史・東京』(383.8/Ta77 閉架書庫)

『食の昭和史』(383.8/Sh81 開架書棚)



「外食券」当館蔵

※ 『日本大百科全書 4』(031/N71/4 開架書棚)にも「外食券」についての説明が載っています。あわせてご覧ください。

外食券とは…

4月1日(昭和16年)、東京など六大都市での米穀配給通帳制の実施にともない、
外食生活者に発行された食券のこと。これを持参して指定の外食券食堂を利用した。
当初は外食券なしでも食べられる店もあったが、食糧事情が悪くなると、外食券があ
っても食べられないことが多くなった。

『昭和 第6巻 二万日の全記録』(210.7/Ko19/6 開架書棚)より

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

当たるかな？お年玉ハガキ



1月17日にお年玉付き年賀はがきの賞品抽選がありました。皆さんはこの“お年玉ハガキ”がいつ誕生したかご存知でしょうか。

わが国初、そして世界初の官製くじ付き年賀はがきは、昭和24年（1949）12月1日に、昭和25年用のお年玉ハガキとして発売されました。売り出し枚数は1億8000万枚で、その内訳は需要の多い寄付金なしのハガキ（1枚2円）は3000万枚しか発行されず、不人気であった寄付金付きのハガキ（1枚3円）が1億5000万枚と大量発行された為、郵便局員は大変な苦勞をして完売させたようです。

さて、当時と現在のお年玉賞品について見てみましょう。

昭和25年（1950）抽選分

- 特等 「ミシン」
- 1等 「純毛洋服地」
- 2等 「学童用グローブ」
- 3等 「学童用こうもり傘」
- 4等 「手箱型葉書入れ」
- 5等 「便箋封筒組合せ」
- 6等 「記念切手」

平成28年（2016）抽選分

- 1等 「旅行・家電など・現金（10万円）」
- 2等 「ふるさと小包など」
- 3等 「お年玉切手シート」

※昭和41年（1966）以降は特等が廃止になり、1等が最高賞

郵便年賀.jp(<http://yubin-nenga.jp/otoshidama/>)より。

特等のミシンは当時23,000円ほどで、1ヶ月の平均賃金の2倍以上もするという高級品でした。また6等の記念切手も大変な人気で、当選ハガキを1枚20円で買入れるという広告が出たり、配達されたお年玉ハガキの盗難事件が相次いだそうです。賞品の2等・3等に学童が使用する品がありますが、これはベビーブームの前ぶれではないでしょうか。

現在の品は、よりたくさんのお年玉から、好きなものを選択するのが特色と言えそうです。景品にも時代が反映されていて興味深いですね。

- ◎参考文献：『年賀状の戦後史』（693/N29）開架
『物価の文化史事典』（337/Mo57）開架
『昭和後期の家族問題』（367.3/Y99）開架
『朝日年鑑 第27巻』（059/A82/27）開架
『写真でみる日本生活図引 別巻』（382.1/Su14/B）開架

—図書室から—

1月26日から1階資料公開コーナー「九段界隈の移り変わり」が始まります。図書室内でも関連本を紹介する予定ですので、その際はぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 186

2016年1月20日 発行/編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1